



THE LETTER 宇都宮東教室

第 7 号 割合

発刊日 2025 年 10 月 14 日

文責 熊澤洋一

今は、小学 4 年生の算数で登場する「割合」。中学生が、小学生のころ「最も苦手だった単元ランキング 1 位、または 2 位」と常に上位に顔を出す。とは言え、「その当時」は「難しい」なんて発想はほぼゼロ。 $10 \div 3 = \dots$ あれ、割り切れない。じゃ、 $3 \div 10 = 0.3$ よしっ、割り切れた。「答えは 0.3」「やったあ、できた」…。さらには、「どっちでやっても割り切れないときは、かけ算で」… こんな感じで学校のカラープリント単元テストで「100 点獲得」は「理解」しているとは到底思えません。結局、「その場凌ぎ」の発想にすぎません。割り切れなければ「分数」、中 1 の「文字式」…。中学進学後に「あれ、おかしいな。」という生徒は中 1 の 1 学期期末テストから数学がジリ貧になってしまうのが現実です。

そもそも小学校 4 年生までの算数は、日々の生活の中にある「計算」や「発想」で「何とかなる」だけで、小 5 あたりから「原理原則や考え方」を学ばなければ、一生身につかない単元が続々と登場してきます。「タイムセール 50% オフ、レジにてさらに 30% オフ」は「80% オフ」と考える高校生もたくさんいます。小学校高学年からは「速さ」、さらに複雑になって登場する「図形」…、放っておいても「何も解決しない」どころか、中学進学後は「挽回不可能」になりかねません。学校では学ばない、教科書のさらに奥に「相当算」・「特殊算」と呼ばれる単元がひっそりと潜んでおります。

小学校のテストは原理原則を理解しての 100 点があたりまえ、特に「式を間違える」は絶対にありえません。何か心あたりがあれば、ご遠慮なく教室まで。

